

28年2月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成28年 2月1日～ 28年2月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		28/2月	3月	4月
伐採動向	スギ	10.0	△ 10.0	△ 10.0
	ヒノキ	△ 12.5	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 66.7	△ 66.7
	エゾ・トド	33.3	0.0	△ 33.3
出荷・販売動向	スギ	△ 10.0	△ 20.0	△ 10.0
	ヒノキ	0.0	0.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 66.7
	エゾ・トド	0.0	△ 16.7	△ 16.7
手持ち立木在庫動向	スギ	△ 10.0	△ 20.0	0.0
	ヒノキ	0.0	△ 12.5	△ 25.0
	カラマツ	△ 66.7	△ 66.7	△ 66.7
	エゾ・トド	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0

・スギの伐採は2月の増加が、3月、4月は減少。ヒノキ及びカラマツは3ヵ月連続して減少。エゾ・トドは2月の増加が、3月は横ばい、4月は減少。

・スギ及びカラマツ素材の出荷は、3ヵ月連続して減少。ヒノキは2月、3月の横ばいが、4月は減少。エゾ・トドは2月の横ばいが、3月、4月は減少。

・手持ち立木の在庫は、一部に横ばいがあるものの、総じて減少。特に、カラマツ及びエゾ・トドは3ヵ月連続して大きく減少。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・トドマツ間伐実行中、冬山最盛期で伐採は順調（北海道）。
- ・伐採は国有林間伐（北海道）。
- ・間伐主体（中国）。
- ・間伐の伐採（九州）。

(出材・販売動向)

- ・出材調整なし。トドマツ小径木に不足感あり、オーダーが多くなってきている。木材搬出トラックが減少で、トラック確保出来ないと販売に苦慮する（北海道）。
- ・出材調整あり（北海道）。
- ・出材調整なし（東北）。

(手持ち立木在庫)

- ・伐採した分手持ち立木は減少、新年度の国有林立木公売で補充する予定（北海道）。